

いまだどきの歴史

一番新しい日本の一ページ

舞妓修業

あつさり辞める若者にペナルティを設定
花街も舞妓育成のリスクマネジメント!?

祇園では今、舞妓修業中に辞める者、舞妓になってもあっさり辞めてしまう者が増えつつあるようだ。舞妓になるにはまず半年~1年間、花街のしきたりや作法を住み込みで修業する。当然、舞などの芸事も習う。休みは舞妓になっても月2回だけ。覚悟がない者には厳しい世界だ。ある置き屋では修業中に半数近くが辞めるといふ。

修業期間中、舞妓の芸事や生活に1人あたり約100万円を要するそうだが、これは置き屋の負担。最近あまりにも簡単に辞める者が増えてきたため、ついにペナルティを課す動きが出てきた。組合のいくつかは志願者の保護者と交わす契約に違約金や賠償金の項目を盛り込んでいるという。とはいえ、一般企業も人材育成に投資しているのは同じ。あっさり辞める者がいても、それは企業が負うべきリスクのひとつだ。舞妓ブランドだけを手に入れ、芸能界や商売、結婚などに活かそうと考えている若者が多すぎるのは憂慮すべきだが、それでも花街にはいかに強い意志を持つ若者を集め育てるかを、頑張って模索して欲しい。決してペナルティで保身するだけではなく。

球団再編!?

プロ野球にも100年構想を打ち出すか?
近鉄の吸収合併で問われる球界のあり方



生き残りの秘訣

強いリーグ(与党)に所属することが

近鉄がオリックスに吸収合併を申し出たことに端を発し、プロ野球リーグのあり方が問われている。プロ野球の収入は観戦料やチーム個々に設定した放映権料、スポンサー料などによって成り立っている。当然、赤字が続けば親会社が大打撃を受けるわけだが、赤字が続くプロ野球各球団を支えているのは、まさに親会社の「辛抱」。辛抱できなくなったら所有権の委譲で、これまでなんとかチームを存続させてきた。でも、チームが身売りになれば、ホームスタジアムが移転になる可能性もあるわけで、それでは「おらがチーム」として愛されるのは難しくなる。プロ野球を見ていると、地域に根づくことに対する意識がチームによってバラバラのような気がする。地域のスポーツ文化を発展させることは、子供の育成などを通して強いチームをつくることにもつながることを決して忘れて欲しくない。今、リーグ自体の運営を見直さないと、今後同じような問題がいくらかでも出てくるぞ。

目指せ!! トップスター!!



タカラヅカのように「学校」という形態をつくる手もあるぞ?

メジャーデビュー!!

和物グッズを扱う企業のマーケットが
京都から世界へと広がり始めたか!?

和装を中心とした商品を企画製造する京都の企業「イースタン・トレーディング」が、MLBとライセンス契約をした。法被(はっぴ)や団扇、扇子などの和装グッズに、メジャーリーグ30球団すべてのチームロゴを使用できるようになった。先だっのメジャーリーグオールスターの前日に行われたホームランダービーでは特製うちわが入場者4万5000人に無料配布され、好評だったようだ。デザインは会場のミニッツメイド・パークのカラーであるえんじ色と黒の2トーンカラーで、漆器のような配色。当初、団扇の使い方を知らなかったアメリカ人も、日本人客の使い方を見て、便利さに気付いたようだった。現在、全チームの法被も「Happy coat」という名で発売されており、「Happy coat」と音が似ていることもあり、チームを勝利に導くハッピーアイテムとして、人気に火がつくかも。和物を扱う企業が世界をマーケットに発展できることを証明して欲しいものだ。



Foam Fingerと
(コレ+)

団扇が気に入った
からといって

団扇替わりに
使うのは
やめましょ



文◎大塚 祐希

京都で活動するライター集団・大塚祐希事務所CEO。昨年のイスラエル滞在以来、異文化を紹介するTEXTREAM PROJECTを始動。20カ国に及ぶ人々とネットワークを構築し、ボーダレスな活躍を目指す。
HP●<http://www1.ocn.ne.jp/~tsukapor/>



イラスト◎両口 和史

1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部卒業。北山のオフィスにて様々なキャラクターやイラスト制作をおこなうユニット「キャトル・イラストレーション」のチーフ。猫、フランス車、家具、雑貨、レコード、本、おもちゃ、平日の公園。それらがイラストを構成するエッセンスである。HP●<http://www.d1.dion.ne.jp/~ryoguchi>